

# 交牧連の活動日誌

～みんな違う みんな仲間～

## 第5回 酪農家仲間や消費者から得られるもの

# 酪農に興味津々の人たちとの触れ合いが 驚きと気付きもたらす

地域交流牧場全国連絡会東北ブロック(福島県会津美里町 福田牧場) **福田 祐子**

私は福島県の会津地方で酪農を営んでおり、2007年に地域交流牧場全国連絡会(交牧連)の会員になりました。同年に酪農教育ファーム牧場認証と酪農教育ファームファシリテーターの認証を受け、日頃から近隣の幼稚園や小学校、中高校生の職場体験、大学生の実習、大人の搾乳体験など、できる限りの受け入れを行っています。

### 記憶に残る大震災で被災した元農家の言葉

酪農家が学校に出向き、子どもたちに乳牛との触れ合いや酪農家との交流などを提供する「モーモースクール」を、18年に福島県飯館村の小学校で開催した時の出来事です。「普段牛さんたちはどんな餌を食べているかな」と配合飼料を入れた袋に顔を突っ込んだ子が開口一番「うーっ、クセエ」と鼻をつまみました。次の瞬間「どうして?もう一度よくにおいを嗅いでみて。良いにおいじゃない?」とお母さん。



2018年に福島県飯館村立草野・飯樋白石小学校で開催したモーモースクール

その子の両親は東日本大震災の前まで和牛の肥育を営んでいたのですが、久しぶりに牛が見られると思い、子どもと一緒に参加されたそうです。震災後に生まれたその子は牛を見るのも餌に触れるのも初めて。お母さんは「何だかショックです」とガッカリした様子でした。

普段のモーモースクールではわれわれ酪農家が子どもたちに説明をするのですが、そのグループでは、そのお母さんが配合飼料や乾草、サイレージなどについて説明してくれました。その後、親子は「搾乳体験」「子牛との触れ合い」「バターづくり」を終え、とても楽しそうでした。「〇〇君、聞いて。パパもママも牛さんいっぱい飼っていたんだよ。牛さんのおかげで〇〇君がいるんだよ」と語りかけたことを今でも鮮明に覚えています。放射性物質を取り除いたりする除染作業が進み、飯館村での畜産業が徐々に再開されているとメディアで報道される度に、あの親子はどうしているかな、と頭をよぎります。



2021年11月、2年ぶりにモーモースクールを開催(宮城県仙台市立幸町南小学校)

### 2年ぶりに被災地で開かれた モーモースクール

交牧連東北ブロックは、11年の東日本大震災から毎年、震災復興支援事業として、被災地の小学校や幼稚園、避難先の小学校などでモーモースクールを開催しており、この活動には全国各地の会員が手伝いに駆けつけてくれます。また「お手伝いには行きませんがアイスクリームで支援します!」と、毎回子どもたちのためにたくさんのアイスクリームが届きます。

最近ではコロナ禍の影響でしばらく活動を中止していましたが、21年11月、2年ぶりに仙台市立幸町南小学校で開催することができました。厳重な感染防止に努め、今回は東北ブロックの会員と宮城県立加美農業高校の生徒さんに手伝ってもらい、大成功に終わりました。

加美農業高校の皆さんには、事前に「ジュニアファシリテーター」の研修を受けてもらいました。東北ブロックでは、農業高校など畜産に携わる学生たちが酪農教育ファームの現場で活躍できるよう、ファシリテーターの意味や牛の調教の仕方などを指導する「ジュニアファシリテーターの支援活動」をしています。

そもそも「ファシリテーターって何?」と思われるかもしれませんが、酪農体験を通して子どもたちがおのの何かを感じ学ぶことをサポートし、話し合いが円滑に進むように誘導する役割の人です。私は酪農教育ファームファシリテーターの認証を07年に取得したと冒頭で述べましたが、その場には数え切れない発見があります。

例えば、コミュニケーションの講習では「話すことよりも聞くこと」を重視し、ペアを組んだ相手の話を聞くだけの練習もしました。もちろん、話す方も何を伝えたいのか、分かりやすく簡潔に伝える練習になります。普段の酪農の作業では得難いことをたくさん学べるのです。多くの仲間たちと親睦を深めるのも楽しみの一つです。酪農教育ファームの牧場認証を取得して、子どもたちを受け入れるのはハードルが高いと思う人は、まずはファシリテーターの認証を取得してみてもはどうでしょうか。

### 酪農の現状を 幅広い年代に知ってもらおう

21年11月、酪農家の生活と会津の文化に触れるという目的で、数人の大

学生を2泊3日で牧場に受け入れました。彼らの酪農の知識は少なかったのですが、好奇心の塊のように何事にも興味を持って取り組んでくれ、「初乳や乳房炎発症牛の生乳などの廃棄がもったいない」「ディッピング剤の空容器などを何かに利用できないか」といった意見を聞きました。

この他、コロナ禍で閉塞感を強めている大学生と酪農家がオープンカフェでコミュニティー形成を図るアイデアなど、新しい酪農教育ファームの形も提案してくれました。

今後は幅広い年代の人々と接して、命の大切さや食農教育はもちろん、われわれ酪農家が立たされている現状も伝え、多くの人にそれを実感してもらうことが最も重要なのかもしれません。

今はパソコンやスマートフォンで全国各地の酪農家と意見交換ができてしまう便利な世の中です。昨年度の交牧連の牧場WEB視察研修会ではZoomを利用し、神奈川県と富山県の牧場を半日かけ視察しました。酪農を巡る情勢は厳しさを増し、ため息ばかりの今こそ、多くの人との関わりが必要なのではないでしょうか。

“交流”はわれわれにとって癒しの時間であり、驚きと気付きもたらし、もしかしたら今抱えている大きな課題の打開への糸口を見いだすきっかけになるのではないかと思います。



福田祐子さん(左)と夫で牧場代表の正幸さん

#### 牧場概要

牧場名: 福田牧場  
代表者名: 福田 正幸  
所在地: 福島県大沼郡会津美里町荻窪  
総飼養頭数: 約100頭(うち搾乳牛約60)  
年間生産乳量: 約600 t  
飼養形態: 放し飼い(フリーストール、フリーバーン)  
飼料畑面積: 約7ha  
牧場スタッフ: 3人(本人、夫、長男)  
交牧連加入年: 2007年  
主な活動: 酪農教育ファーム受け入れ、中・高校生の職場体験、大学生の実習受け入れ

#### 地域交流牧場全国連絡会(交牧連)に関するお問い合わせ先

(一社)中央酪農会議内交牧連中央事務局  
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295  
メール: koubokuren@churaku.jp  
ホームページ: <https://www.dairy-farm.jp/>  
フェイスブック: <https://www.facebook.com/koubokuren>



【交牧連 HP】